

第10話 学校研究 高校入試編④

トリッキーな入試を行う学校が並びます。

慶應付属湘南藤沢高校

中学入試と同じく、慶應付属として、最も人気の高い学校の一つです。こちらの高校入試は、一般生の募集がありません。全国枠（帰国枠に当てはまらない、首都圏以外に在住の生徒。海外含む）というものがありますが、今回は割愛します。

入試形態は分かりやすく、英・数・国と面接です。数・国はそれほどの難問は出題されないのですが、他の早慶に向けた勉強をしていれば自然と対応できるようになるでしょう。ただし、易しいとも言えないレベルですので、油断は禁物です。ちなみに、国語に古文は出題されません。

英語に関しては、英検1級ホルダーでもリスニングが難しかったという感想が出ます。エッセイのみの中学入試とは違い、しっかりとした英語力が必要です。

ところで、この学校は出願資格がよく変わります。今回も変更がありましたね。今現在のものをまとめてみましょう。

- ・過去3年のうち、1年6カ月以上海外に在住。
- ・過去6年のうち、3年以上海外に在住。
- ・過去9年のうち、5年以上の海外に在住。
- ・1年半以上さかのぼっていき、どこかのタイミングで海外経験の方が長くなればOK。
(上記いずれも、連続していなくても良い。)

このうち、どれかの条件に当てはまればよいというものです。なんだか分かりづらいので、例を見てみましょう。

○3年間海外に滞在していた。

→2010～2013年の3年間なら、過去6年のうち3年の滞在なのでOK。

→2009～2012年の3年間なら過去9年間の枠になり、5年以上必要なのでNG。

○2012年～2014年頃、2年半滞在した。

→8年以内の枠には入らない。6年以内では、3年間滞在していないのでこれも無理。

しかし、さかのぼって過去4年のうち、半分以上滞在しているのでOK。

ざっくり、帰国してから入試までの期間より滞在が長ければ資格あり、というイメージになります。ただし、数カ月の誤差は相談に乗ってくれるので、出願資格に届かなくても入試事務室に問い合わせてみましょう。数カ月ならばゲタを履かせてもらえることも多いです。

国際基督教大学高校（ICU高校）

こちらの学校の帰国生認定が通れば、計3つの受験を行うことができます。

1つめは、推薦入試。

こちらは、英検等の資格に加え、通っている学校の推薦書や自己推薦文も重要な書類になります。

出願資格は、9科目で評定40以上、その他英検2級等の語学検定が必要となります。ただ、英語圏からの応募者を考えると、実質英検準1級以上の戦いと言えるかもしれません。

面接試験もありますが、推薦入試はほぼ書類で決まっていると考えて良さそうです。

2つめは、書類選考。

上記のような書類から、総合的に合否を判断するものです。（共通の書類は再提出不要）

学校の話では、20人以上の先生が審査にあたっているとか。推薦で通らなくても、書類選考で合格ということも多々あります。

また、過去の受験者を参考に合否を割り出す部分もあるとのこと。この現地校はこれくらいの成績であれば優秀だ、という判断基準があるわけですね。そのため、サンプルの少ない国や学校は、有利に働くという噂も。私の実体験としては...無いとは言い切れません。もちろん一定基準は必要です。

3つめは、学科試験。

問題は一般生と同一ですが、帰国生は別枠で審査されます。

総合的な難易度がそれほど高いわけではありませんが、かなり特殊です。

国語・英語はとにかく長文。接続詞に注意し、論理的に読みときながら文章の骨子を要約できる国語力が求められます。選択問題が多いものの、大問1つにつき10以上の設問があるので、配分を間違えば時間切れとなってしまいます。

数学はICU独特のもので、ある主題について会話が進んでいき、途中で穴埋めや、会話に即した計算等をしていく、というスタイルです。後半になるにつれて会話の難易度が上がっていきませんが、前半である程度の得点はできます。冷静に、取れる問題をとりましょう。

さて、素直に読み解けば上記のような受験ですが、実のところ謎の多きICUです。

受かるべくして受かる子もいれば、不合格の理由が見当たらないことも。他の受験対策ではボロボロだったのに、ここの学科試験で合格を勝ち取れた子も。受験は総じてそういうものなのですが、特に強く感じます。

次回はその他の早慶を見ていきましょう。

著者：谷口 仁

Sep 5 2016

